

2. がん検診受診状況

研究協力者 山口知香枝 (名古屋市立大学看護学部 講師)
研究協力者 小嶋雅代 (名古屋市立大学大学院医学研究科 准教授)
研究協力者 細川陸也 (名古屋市立大学看護学部 助教)
研究代表者 近藤克則 (国立長寿医療研究センター老年学評価研究部長)

<要旨>

本研究では、胃がん検診、肺がん検診、大腸がん検診、子宮がん検診、乳がん検診それぞれの検診の受診状況を健康保険の種別や就業状況などとともに明らかにし、多くの市民が積極的にがん検診を受診できるような機会を作るための示唆を得ることを目的とした。その結果、年齢については、年齢が高いほど受診率も上昇していた。また、男女ともに常勤・正規職員に比べ、自営業や非正規職員で受診率が低く、低所得者でも受診率が低かった。さらに、女性では、サードプレイスの存在が受診と有意に関連していた。今後の介入案としては、自営業・非正規職員に焦点を当てた啓発活動や、低所得者や無職の方が集いやすい場、スーパー、お弁当屋さん、パチンコ等のギャンブル場、ハローワークなどでの情報提供を行うことなどが挙げられる。女性については、カフェやスポーツジムなどのサードプレイスでの情報提供ならびに各種検診の実施等も有効ではないかと考えた。

神戸市の行った調査に協力して集計・分析を実施した。データの研究への二次利用について神戸市の倫理審査委員会の承認手続き中であるため、神戸市に報告済みの要旨のみ掲載した。神戸市の報告書は巻末の参考資料を参照のこと。